

業務概要 (プロポーザル参加者が具体的に提案すべき内容)

1. 業務委託名

雲南圏域における次期可燃ごみ広域処理施設整備基本構想策定業務委託

2. 整備予定施設

一般廃棄物（可燃ごみ）処理施設。

必要に応じて中継施設のあり方。（既存施設の活用検討を含む。）

3. 施設整備目標年度

できるだけ早期。（組合は令和14年度～、奥出雲町はできるだけ早く。）

4. 次期施設整備方針案（コンセプト）

（1）安心・安全で環境にやさしい施設

（2）経済的・効率的な施設

（1）は、次のとおり。

- ・整備周辺地域への環境影響が最小限であること。
- ・気候変動抑制や温室効果ガスの削減に貢献するものであること。
- ・災害廃棄物の処理が円滑に進む施設であること。
- ・高齢化社会に優しい施設であること。
- ・常に稼働が継続される、強靱な施設であること。
- ・ごみや環境問題の情報発信拠点、学習啓発が可能となる施設であること。

（2）については、次のとおり。

- ・イニシャル、ランニングそれぞれのコスト低減が求められること。
- ・余熱利用など、地域のエネルギーセンター機能が求められていること。

5. 業務の内容

受託者が基本構想において整理・検討する業務の内容は、上記「4. 次期施設整備方針案（コンセプト）」の整理並びに以下に記載する6項目。なお、施設規模は、3市町の防災計画や災害廃棄物計画等による災害廃棄物の処理量を考慮する。

① 雲南圏域のごみ排出量の将来見込み

② 次期施設の基本的構想

- ・既存施設やごみ排出量の将来推計により、今後必要となる広域処理体制等を整理すること。（供用開始後の15年～20年間（施設運営期間）に人口やごみ量が大きく変化することを十分に想定する必要がある。）

- ・国の制度や計画等を十分考慮し、次期施設の規模、面積、費用、余熱利用等基本構想として必要な事項を整理すること。
- ・中継施設の必要性を整理すること。

③ 雲南圏域における施設建設立地特性

- ・次期施設の建設立地に関する事項を検討すること。
- ・施設整備に向けた考慮すべき特徴、圏域内での土地利用規制の分布、全国的な建設地事例を紹介すること。
- ・整備施設ごとの立地特性を、必要項目ごとに抽出し検討・整理すること。
- ・候補地選定までは行わないものであること。

④ 雲南圏域における用地選定手法の検討

- ・用地選定の具体的手法の抽出や特徴を整理すること。

⑤ 集約に向けた移行体制の検討、集約化後の施設の活用策等

- ・今後3市町連携で施設整備を行うことの実現性、可能性、妥当性を整理すること。
- ・そのうえで、集約化に向けたスムーズな移行（集約施設への一斉搬入あるいは段階的搬入）のための対応策を検討すること。
- ・収集運搬に係る車両台数、人員体制等について検討すること。
- ・次期施設稼働後の直接持ち込み先について検討すること。
- ・加えて、分別方法やごみ処理手数料の統一化を検討すること。

＊たとえば奥出雲町は飲料用・調味用ペットボトルの分別回収を実施しているが、雲南市、飯南町は実施していない。

＊ごみ処理手数料については、収集指定袋が3市町全体で容量別に4種類あり、料金は6種類ある。また、住民の直接持ち込み手数料は雲南市、飯南町は同一だが、奥出雲町は異なる。

⑥ 次期施設建設に向けたスケジュール、事業運営方式、財源計画等

- ・基本計画、事業方式・処理方式（機種選定等）選定、用地選定、環境アセス、用地測量～設計～施工など、詳細な整備スケジュールを整理すること。
- ・公設公営、公設民営（DBO等）、民設民営（BTO、BOT等）それぞれの特徴や近年の動向、国庫交付金や起債等の財源計画を整理すること。

提案は、上記 7 項目に「独自提案」を加えて、全部で 8 項目となります。
（資料No.5参照）